

## 6-33 南海トラフ（室戸岬—御前崎沖）の海底地形について Detailed Topography of the Nankai Trough

海上保安庁水路部

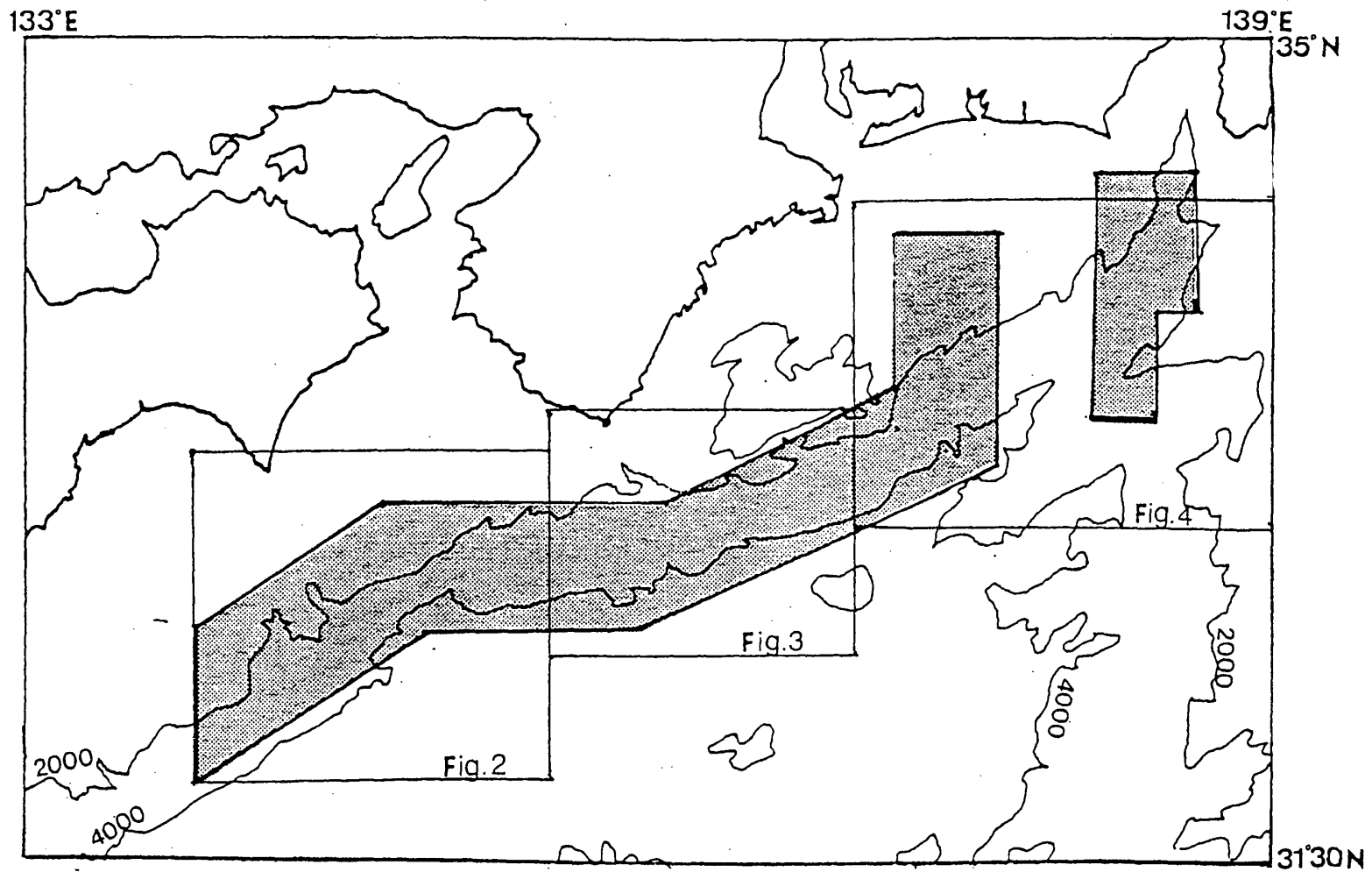
Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

水路部では、1992年8月にSeaBeam2000（水路部測量船明洋搭載）を使用して、南海トラフ（室戸岬—御前崎沖）の海底地形測量を行ったので、その解析結果を速報する。

今回の調査によって従来にない高精度の精密地形および反射強度のデータを得ることができ、付加体の詳細な姿が明らかになった。南海トラフはフィリピン海プレートとユーラシアプレートとの収束境界であり、トラフの陸側には堆積物のスラストシートの積み重ねによって構成される付加体が発達している。

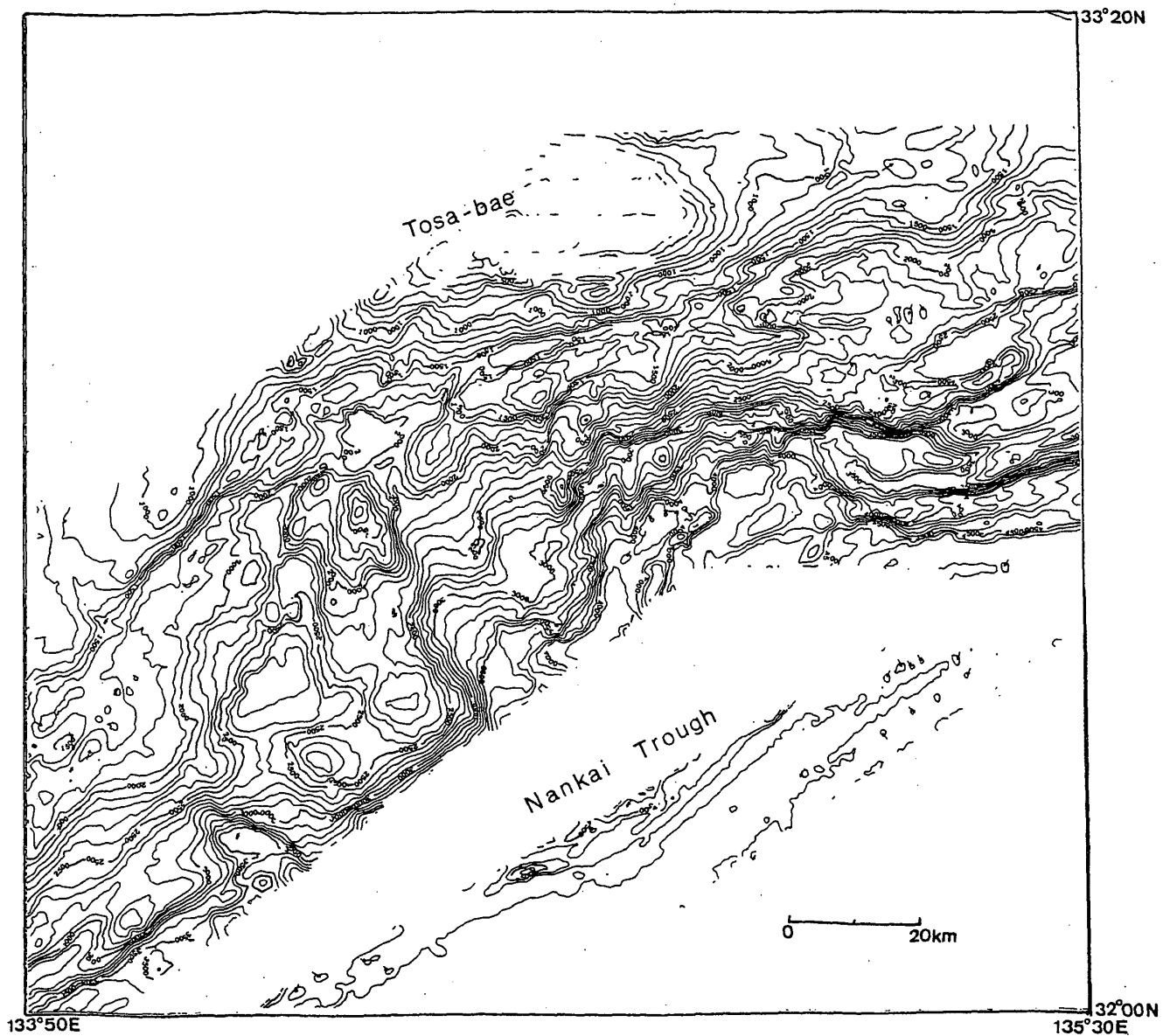
調査は室戸岬沖から潮岬海底谷、天竜海底谷をへて駿河トラフに至る東西480kmの海域（Fig.1）で行われた。その結果、付加体を構成する個々の地形要素のスケール、方向性、形状を細部まで認識することが可能になり、それらの要素の二次元的分布が明らかになった。現在データ処理中であるが、Seabeam データから読み取ることのできる付加体の主たる地形的特徴は以下のとおりである。

- 1) 全域にトラフ軸にほぼ平行なリニアメントが発達している。
- 2) 土佐ばえ以西では比較的 slope が緩やかで、トラフ軸に斜交するNW—SE方向リニアメントが存在する。（Fig.2）
- 3) その東は imbricate thrusting の地表への現れと考えられる ridge&trough が発達する。土佐ばえのすぐ東ではこれらのリニアメントは連続的であるが、潮岬海底谷付近から東は短いリニアメントが雁行配列する。（Fig.2）また、トラフ軸に直交する向きに伸びる窪みが認められる。（Fig.3）
- 4) 天竜海底谷の西側に顕著なN—Sリニアメントが見られ、この部分を境に東ではNE—SW方向の地形の波長はごく小さくなる。（Fig.4）



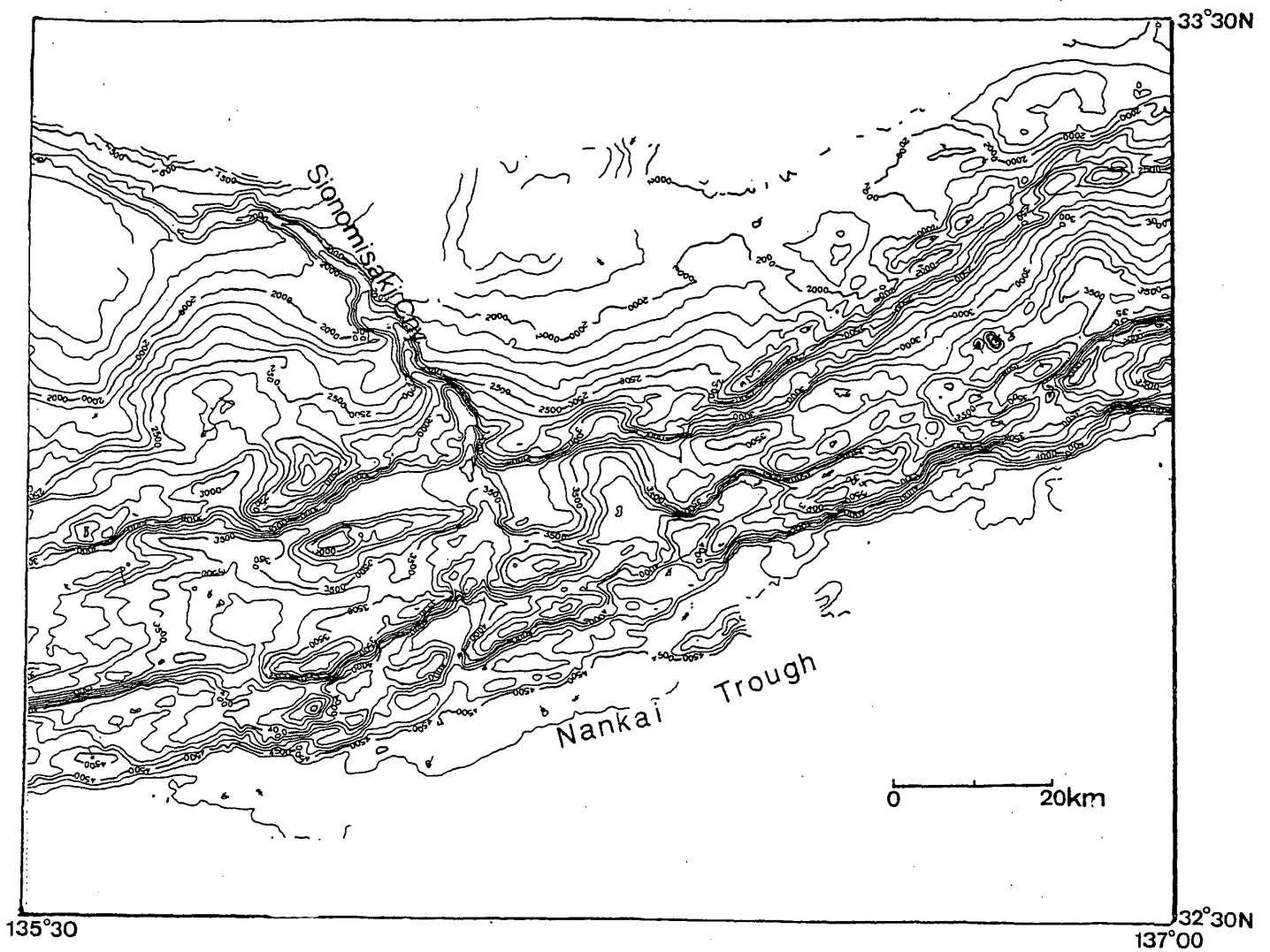
第1図 測量区域 第2～4図の位置を示す。等深線は2000m間隔

Fig.1 Survey area (shaded). Boxes show the locations of bathymetric maps. (Fig.2-4) Contour interval is 2000m.



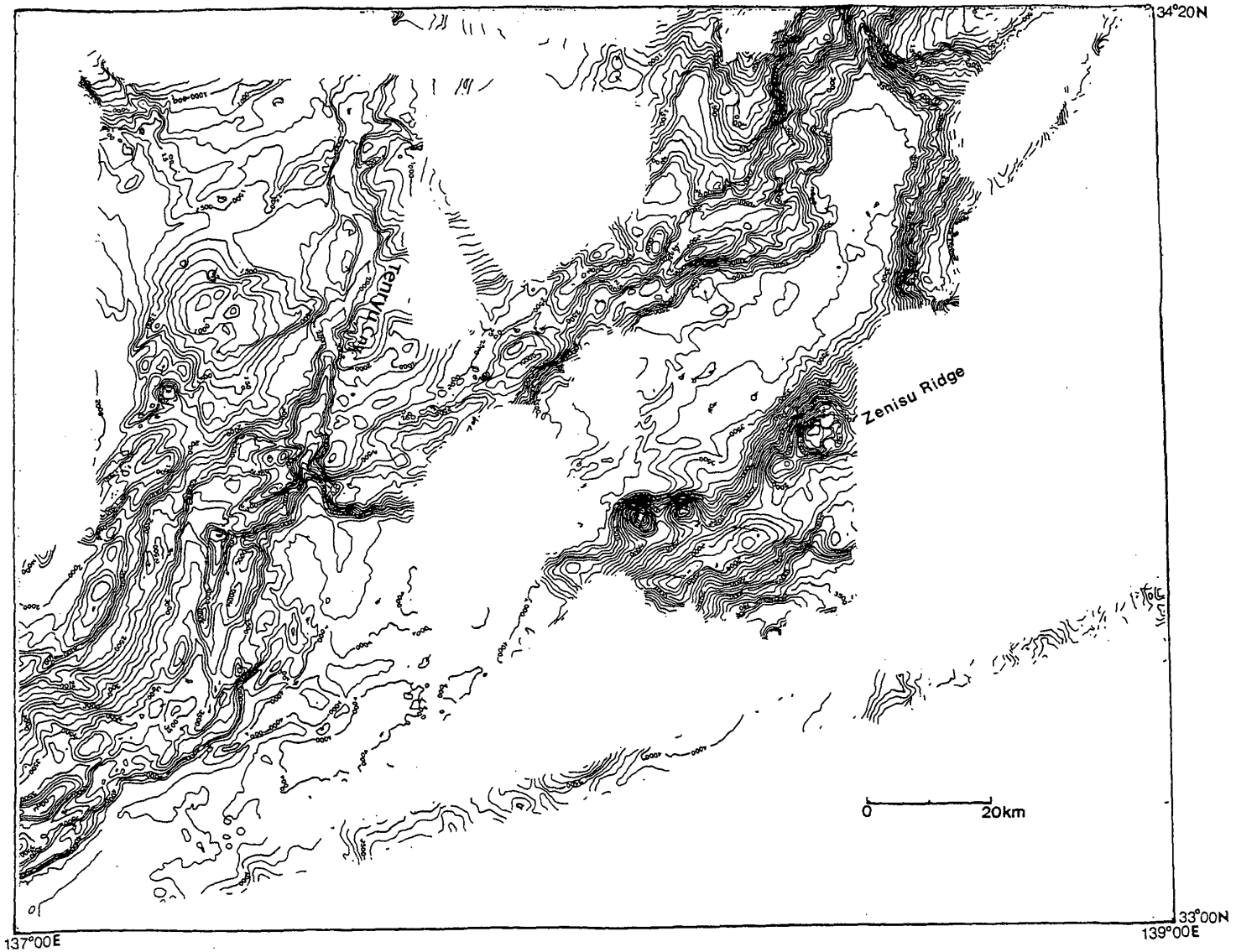
第2図 海底地形図 等深線間隔は100m位置は第1図に示す。

Fig.2 Bathymetric map. Contour interval is 100m. See Fig.1 for location.



第3図 海底地形図 等深線間隔は100m位置は第1図に示す。

Fig.3 Bathymetric map. Contour interval is 100m. See Fig.1 for location.



第4図 海底地形図 等深線間隔は100m位置は第1図に示す。

Fig.4 Bathymetric map. Contour interval is 100m. See Fig.1 for location.